

7. 市内に残る戦争の傷跡

(1) 焼け残った木（西新町：十輪寺）

戦国時代、三木攻めに向かう豊臣秀吉が、この寺に立ち寄って戦勝祈願をした際に植えたという言い伝えのあるスギの木で、戦災で焼ける前は、高さ 25m の大木だったそうです。

黒く炭化した、2m ほどの木片しか残らなかったことが、空襲のすさまじさを伝えていきます。



(2) 戦災死者の精霊墓碑（上ノ丸：大聖寺）

川崎航空機では、学徒動員された少年少女も働いていました。

本寺には寮があり、21 世日成上人には、彼らを訓戒するという縁もあったため、本寺に、空襲で犠牲になった人を慰霊する墓碑がいくつかあります。

その中には、明石市が 1946 年（昭和 21 年）春に建てたものもあります。



(3) 空爆犠牲者之碑（西新町）

この場所あった明石車両工場にも爆弾が落ち、31 人の犠牲者が出ました。

1978 年（昭和 53 年）、山陽電気鉄道株式会社、山陽電気鉄道労働組合が、犠牲者の冥福を祈るため、また平和を守る誓いの碑として建てたものです。



(4) みがわり地蔵（川崎町）

旧川崎航空機の敷地の一部に、空襲で命を落とした動員学徒と、一般従業員の霊を慰めるための地蔵尊が建てられています。



(5) 空爆犠牲者を祀る下溝地蔵尊 （林崎町）

この場所には、高射砲陣地がありました。1月19日の空襲時に、この場所に落ちた爆弾で犠牲になった高射砲隊兵士の霊が祀られています。



(6) 明石空襲の碑（明石公園内）

明石空襲から40年目の1985年（昭和60年）、明石空襲の記憶を風化させてはならないという思いで集まった「明石空襲の碑を作る会」が、広く建設寄付を呼びかけ、犠牲者への鎮魂と平和への誓いを込めて建てられました。



(7) 忠魂碑

市内5か所（中崎・林・大久保・魚住・二見）にあります。

※ 林は、近隣住民の犠牲者を含め慰霊した「忠魂慰霊碑」です。